

シンガポール 出張報告書

2018年7月13日

イベント事業部アンカー 六角 秀 和

(佐々木 MG、大谷氏 同行)

出張日程 : 7/2 21:50 新千歳空港発→ 7/3 6:40 シンガポール着 (羽田空港経由)
7/3 10:30 打合せ→PM～市街地視察
7/4 10:30 打合せ→PM～顧客関連施設視察
7/5 夕方: ジェトロ訪問→最終打合せ→会食
7/7 11:00 シンガポール発→ 22:15 新千歳空港着 (羽田空港経由) →帰札

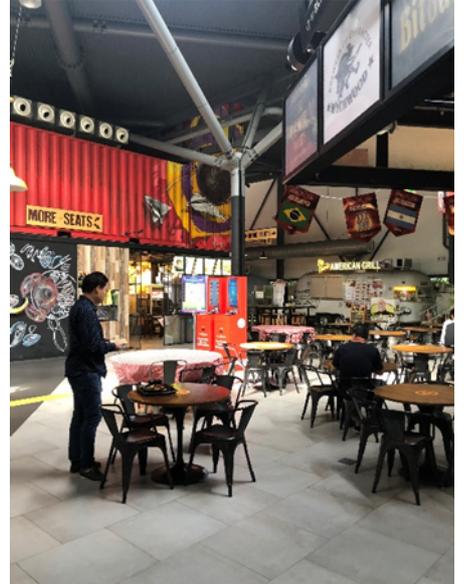
● 7月3日

出張とはいえ、私は海外は初めてである。機内泊も当然ではあるが、シンガポールでの交渉を考えると、深い眠りにつくこともできず、睡眠時間約2時間程でシンガポールに到着。シンガポールの第一印象は、建物やタクシー内はキンキンに冷えているが、外に出ると一気に汗が噴き出る感じ。気温は30℃前後ではあるが、とにかく湿度が高い。持って行ったボディシートは最高のアイテムとなった。

宿泊したホテルの周囲は、ダウンタウン。古い低層住宅の中に、ぽつぽつと超高層の近代建築物(集合住宅)が建ってる。タクシー運転手によると、ホテル周辺には、美味しい中華料理店が多くあるという。

打合せ後、JTC コーポレーションが管理するビジネスパークに向かう。ここはオフィス街というよりも、キャンパスという感じだ。聞くと、旧工場跡を再利用し、6~7棟に700~800の企業が入居している。ここに入居する企業は、全て国の支援を受けている。故に、ここに入居するには、国の審査を受け、それに合格した企業しか入居できない。一人企業もあり、可能性のある人材の宝庫でもある。建物の壁面には“THE FUTURE STARTS HERE”とある。ヤマチグループを国レベルに大きくしたイメージである。非常に面白い。広大な敷地内には、バスケットボールコートやイベント棟、フードコートがキャンパスのように配置されている。フードコートはコンテナを使い、ファンキーなペイントがされ、昼食時には満席となる。もちろんアルコールもある。





フードコート

シンガポールには、アラブ街、インディー街、チャイニーズ街がある。日本でいう下町。根本的な建物は、シンガポールに古くからある建物をリノベーションして、各民族特有の装飾がしてある。同じ建物には見えない。その中に各民族のシンボリックな建物が点在する。まずは、アラブ街。



街並 セブンイレブンもある
続いてインディー街



モスク



モスクに増設されたエレベーター



シュールな壁画

中華街。メゾネットのアパートはコリント様式の装飾がされ、レリーフは全て左官によるもの。中華街なのにヨーロッパのようだ。RC造のラーメン構造体は、後ろに写る近代建築物より比率的に大きい。古い建築物の方が構造的に強いと思われるがどうだろう。スパンも良い感じ。

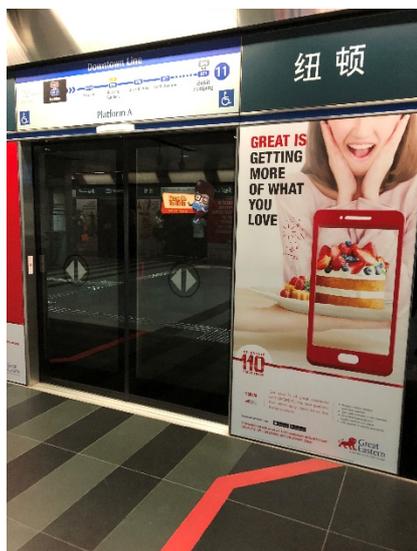


車中から

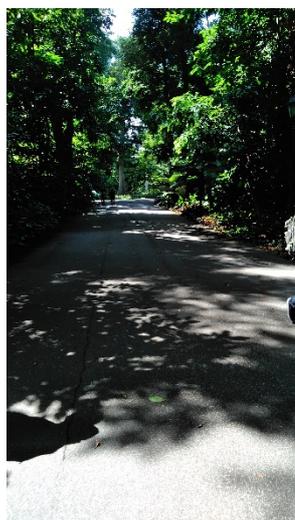


メゾネットのアパート

● 7月5日



この日の業務予定は夕方からの為、三人で各所の視察へ出かけた。地下鉄に乗り、大谷さんが行ってみたいと言っていた『SINGAPORE BOTANIC GARDENS』へGO。地下鉄ホームは電車の走行部とは完全に隔離されている。この隔壁には広告物が多くみられるが、車内には広告物は無く、シンプルなイメージ。日本と大きく違ったのは、エスカレーターの手摺の速度。日本と同じイメージで乗ると、躓いたり、つんのめったりする。佐々木 MG が気付いたのだが、踏面と手摺の動く速度が違う。わずかではあるが、手摺のスピードが速い。中木部分には固定されたブラシが連続的に設置されている為、靴を当てると自動的に靴磨きができる。とても便利。



地下鉄を降り、地上に上がると、『SINGAPORE BOTANIC GARDENS』が隣接していた。この日は湿度ばかりではなく、気温も高い。汗が一気に噴き出してくる。この公園は、シンガポールで最も歴史のある公園。パンフレットを見たが、かなり広大。長距離の歩行が予想される。公園内は古い樹木を中心に、様々な樹種がラン

ケされている。歩いたのはここだけではないが、この日の歩数計は 16,258 歩の 12.5km を示していた。高校の遠足以来の長距離歩行である。さほど昔の話ではないが、足の裏にはしっかりマメができていた。ここでも持参したボディーシートが大活躍。

市街地を歩き回らる中で、建築屋でもある私が面白いと思った建物をいくつか紹介する。シンガポールには日本のように豆腐的な四角い建物はほぼ見られない。古い建物であっても、何らかのデザインがされている。構造的には RC 造がメイン。地震や台風の無いシンガポールでは、日本では考えられない構造様式。日本では 5 階建までしか許されない壁式構造の超高層建築物。中間層には吹抜け部が各所に。ラーメン構造の柱や梁も、かなり細い。日本のゼネコンも多く進出しているシンガポール。高強度コンクリートを使用しているようだ。構造的な縛りが無いゆえに、その分、様々なデザインが可能となっているようにも見える。デザインには当然コストがかかるため、国全体が裕福であるとも受け取れる。



床フィンはバルコニーではない



全体曲線美



壁式中間層が吹抜け 壁が薄い



上層部で繋がっている



デザインされた鉄骨部にツタを這わせている



各所に様々なモニュメント



レッドキングの首?



70年代のようなデザイン



ドリアンの向こうにガラス張り



BMW 本社ビルのような MS



デザイン統一された MS 群



懐かしいハニーカム

建築的報告は以上とさせていただくが、一番印象に残っていることは、自然や緑を大切にしているところだろうか。樹齢 100 年を超える大木が各所に見られ、毎年その枝が折れて死人も出ているが、その木を根元から切ることにはしない。大木を避けて建築物を建てているところも多くみられた。芝生についても、荒れた芝生は一度も見えていない。『隣の芝は青く見える』というが、この言葉は、シンガポールでは全く通用しない。

しかしながら、その自然の中で、建築物や様々なデザイン全てが自由であると感じられた。日本では、『緑化条例』や『風致地区』、『景観法』等により、緑や景観の制限をかけているが、シンガポールではその制限が無いにもかかわらず、近代建築と古い建築物、自然が融合してマッチしている。建築デザイン等に関して、今まで学んできた全てがアホらしく感じる。デザインは理屈ではない。デザインは自由でなければならない。使えないものはデザインでありあえない。当たり前のことではあるが、改めてそう感じさせられたシンガポール出張であった。